

第2節 羽村市の現状

1 羽村市の地勢

羽村市は、都心部から西に約 45km、武蔵野台地の一角、多摩川の河岸段丘上に位置しています。

東は瑞穂町、南は福生市・あきる野市、西は青梅市、そして北は青梅市と瑞穂町に接しており、その広さは、東西に 4.23km、南北に 3.27km、行政面積は 9.90 ㎢となっています。



2 羽村市の沿革

明治 22 年に市町村制が施行され、当時の羽村、五ノ神村、川崎村が合併し、現在の羽村市の前身である「西多摩村」（人口 3,132 人、戸数 501 戸）が誕生、明治 26 年には神奈川県から東京府（現東京都）に移管されました。

西多摩村は、明治、大正、昭和と純農村でありましたが、先覚者の努力により徐々に近代化していき、特に明治末期から昭和初期には養蚕業が著しく発展し、その名を全国に高めました。しかし、その後は不況、戦時体制への突入により、人々の生活は圧迫されていきました。

戦後は、他の地域と同様に復興が始まり、進取の気性に富んだ往時の人々により首都圏近郊農業への模索が行われる中で、都市化の傾向が徐々に現れ、人口も増加していき、昭和 31 年 10 月 1 日に、町制（人口 10,104 人、1,887 世帯）を施行し、羽村町となりました。

その後、昭和 37 年に首都圏整備法による市街地開発区域に指定され、土地区画整理事業を進めるとともに、工場誘致を行い、産業形態は一変しました。

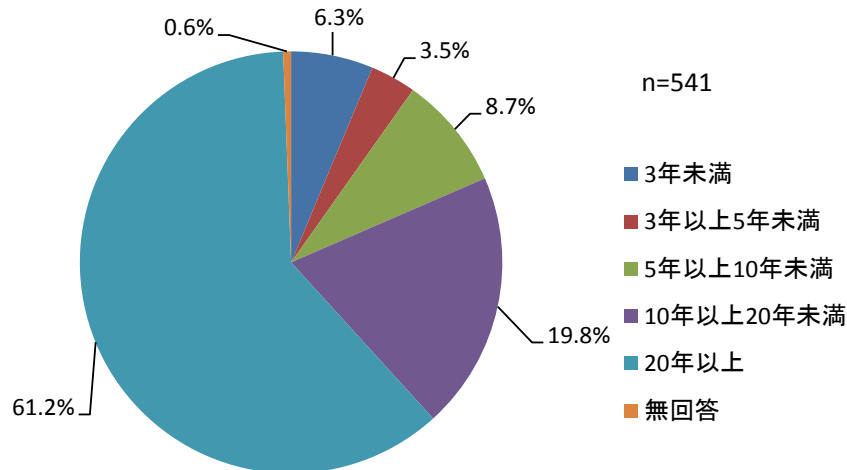
工場の進出に伴い、市街地が整備され、人口も急増し、現在のように工業都市と住宅都市が調和した職住近接の近代都市として活況を呈してきた中、平成 3 年 11 月 1 日に市制を施行し、「羽村市」（人口 53,381 人、19,386 世帯）が誕生し、平成 23 年には、市制施行 20 周年を迎えました。

羽村市は、明治 22 年に市町村制が施行されて以降、変わらぬ行政区域の中で、単一の自治体として発展を遂げ、今日に至っています。

3 羽村市での居住期間

市民の羽村市での居住期間について、「平成 22 年度羽村市市政世論調査」の結果で見ると、「20 年以上」が 61.2%と半数以上を占めており、次いで「10 年以上 20 年未満」が 19.8%となっており、この 2つを合わせた 10 年以上羽村市に居住している市民の割合は、約 81%となっています。

【図表 5 2】市民の居住年数

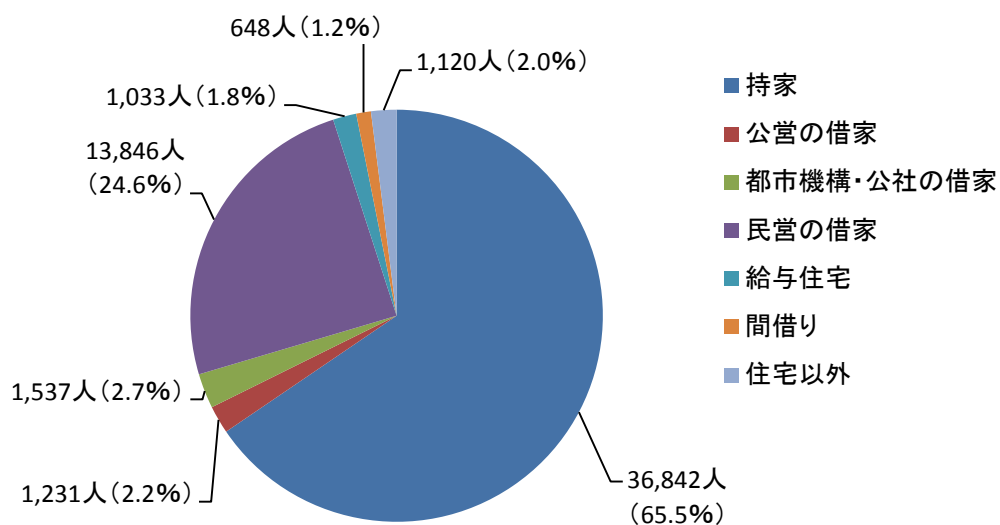


参照：平成 22 年度 羽村市市政世論調査

4 居住形態

市民の居住形態について、「平成 22 年国勢調査」の結果で見ると、「持家」が 65.5%と半数以上を占め、次いで、「民営の借家」が 24.6%となっており、持ち家率の高さが伺えます。

【図表 5 3】市民の居住形態



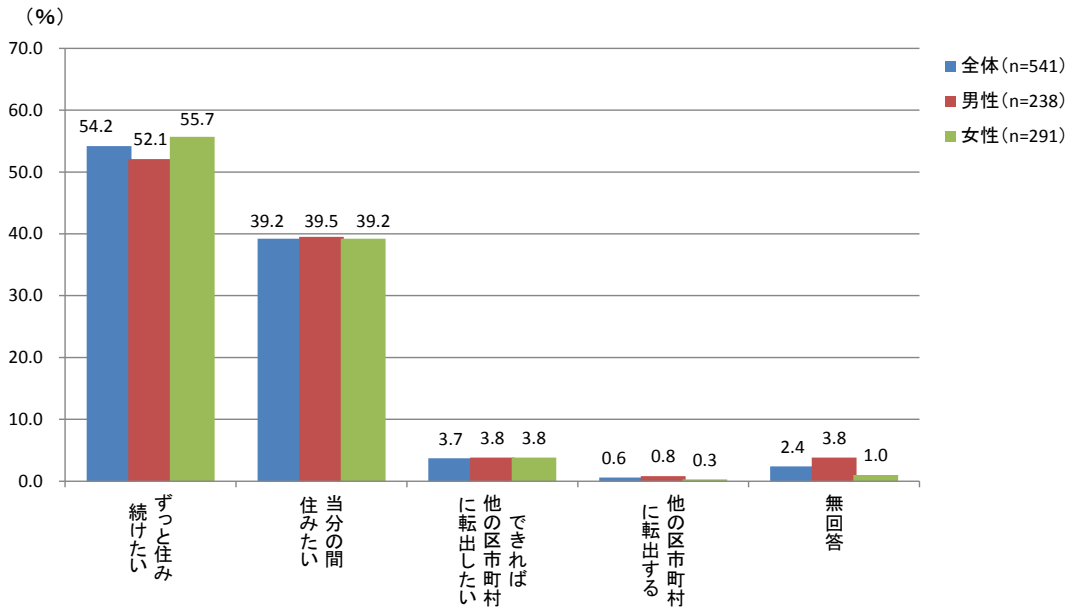
出典：平成 22 年 国勢調査

5 羽村市への愛着度

(1) 全体・男女別

市民の羽村市への愛着度を「平成 22 年度羽村市市政世論調査」の結果で見ると、「ずっと住み続けたい」、「当分の間住みたい」の合計は、全体では 93.4%、男性が 91.6%、女性が 94.9%と高い数値を示しています。

【図表 5 4】市民の市への愛着度

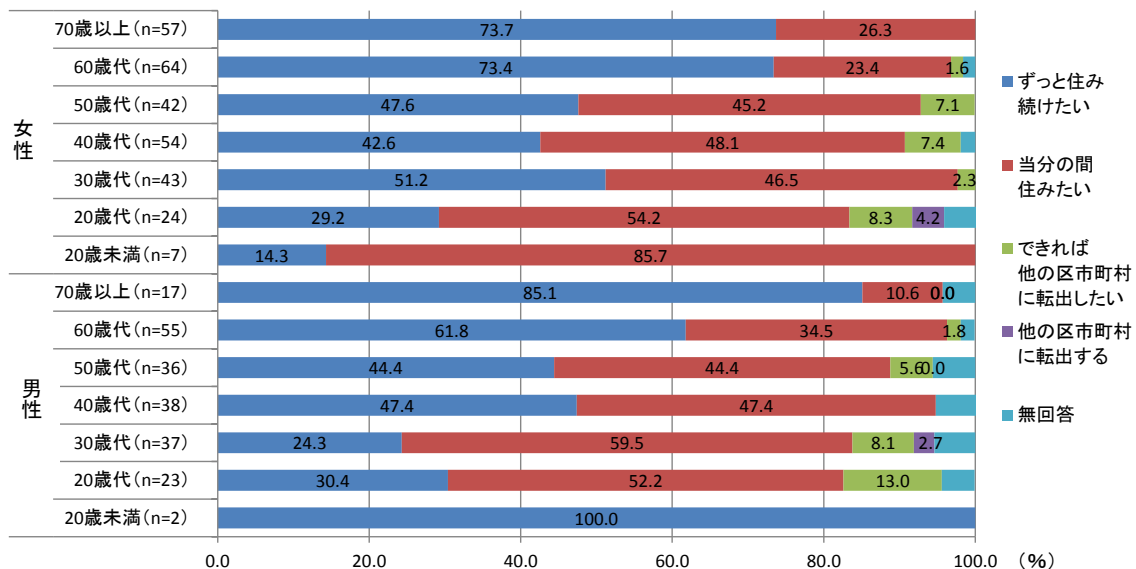


参照：平成 22 年度 羽村市市政世論調査

(2) 性・年代別

市民の羽村市への愛着度を性・年代別に見てみると、年代が高くなるほど、「ずっと住み続けたい」と回答した方の割合が高くなっています。

【図表 5 5】性・年代別市民の市への愛着度



参照：平成 22 年度 羽村市市政世論調査

6 昼夜間人口

羽村市の昼夜間の人口比率を国勢調査の結果で見ると、過去3回の調査で、いずれも昼夜間人口比率は9割を超えており、羽村市から市外へ通勤・通学で出ていく方と同じくらいの割合で、市内に通勤・通学で入ってくる方がいることが分かります。

【図表56】羽村市の昼夜間人口比率

区分	国勢調査人口	当地に常住する 就業者・通学者数	当地で従業・通学する就 業者・通学者数(従業・ 通学地不詳を含む)	昼間人口	昼夜間人口比率
平成22年国勢調査	57,032	30,316	26,561	53,277	93.4%
平成17年国勢調査	56,514	31,137	30,703	56,080	99.2%
平成12年国勢調査	56,013	32,255	30,490	54,248	96.8%

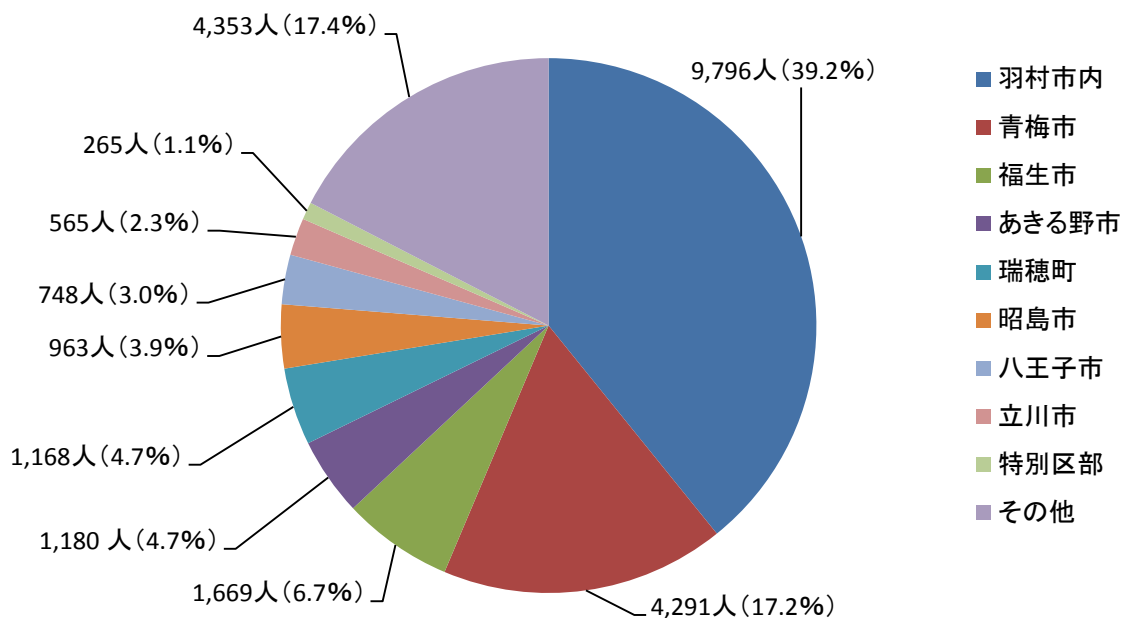
出典：平成12・17・22年国勢調査

7 羽村市への通勤・通学者数

羽村市への通勤通学者数を「平成22年国勢調査」の結果で見ると、羽村市内に通勤・通学している方が39.2%と最も多く、次いで青梅市が17.2%、福生市が6.7%、あきる野市が4.7%、あきる野市が4.7%と近隣市町から通勤通学する方が多いことが分かります。

また、その他の地域から17.4%の方が通勤・通学しています。

【図表57】羽村市への通勤・通学者数



出典：平成22年 国勢調査